

**「アビガン®錠200mg」のエボラ出血熱ウイルスに感染したフランス人女性への投与について**

平成26年9月26日

富士フイルム株式会社（社長：中嶋 成博）は、富士フイルムグループの富山化学工業株式会社（社長：菅田 益司）が開発した抗インフルエンザウイルス薬「アビガン®錠200mg」※（一般名：ファビピラビル）が、エボラ出血熱に罹患した患者の治療のため、フランスの病院で投与されたことを、お知らせいたします。

日本政府は、感染が広がるエボラ出血熱に対して、日本の企業が開発した治療に効果の見込める薬を提供する準備があることを表明しています。

今回、フランス政府機関であるFrench National Agency for Medicines and Health Products Safety (ANSM)より富士フイルムに対して、エボラ出血熱ウイルスに感染したフランス人女性看護師の治療用として、アビガン錠の提供の依頼があり、日本政府と協議の上、緊急対応としてこれに応えたものです。

投与されたフランス人女性は、リベリア共和国の首都モンロビアで医療活動に従事している中、エボラ出血熱ウイルスに感染していることが判明し、治療のためにフランスへ移送されています。9月19日、アビガン錠と他の未承認医薬品を併用する形での治療が開始された、との連絡をANSMより受けました。9月25日時点で、患者はアビガン錠を服用中です。

尚、富士フイルムと富山化学工業は、引き続き、当該薬事当局、関係国際機関、ウイルス感染症専門医等と連携しアビガン錠をエボラ出血熱患者の治療に活用する可能性について検討していきます。

※ 「アビガン®錠200mg」：

富山化学工業株式会社が開発した薬剤で、日本で抗インフルエンザウイルス薬として平成26年3月に薬事承認を取得している。

本件に対するお問い合わせは、下記にお願い致します。

報道関係	コーポレートコミュニケーション部	TEL：03-6271-2000
その他のお問い合わせ	医薬品事業部	TEL：03-6271-2171